



目次

巻頭言	1
研修会報告	1
全国連合退職校長会報告	1
東海北陸地区退職校長会協議会報告	2
地区退職校長会だより	2・3
生き生きライフ	3・4
訃報	4
事務局だより	4

題字	19年度入会 杉浦光子 (元 安城・桜町小)
絵	22年度入会 中川克夫 (元 新城・東郷中)

最近思うこと

副会長

山田 政宏



最近、年のせいか気が短くなつて、怒りっぽくなつたような気がします。現職のころは、先生という立場を考え、何事にも、慎重であつたことを思うと、それだけ、自由人になつたのでしょうか。

このごろ、新聞やテレビのニュースを見ると、腹の立つことばかり。

「政治」では、期待した民主党政の不甲斐なき、地方改革の名のもとに、十分な議論もせず、行政改革を進める首長とりわけ、後者は、身近にあるだけに気になります。例えば、「教育委員会制度を廃止し、首長に権限を委譲せよ」との発言など、言語同断です。過去の経緯を無視したもので、首長が変わるたびに、教育をなぶられたら可憐いと思います。「いじめ問題」、自分も在職中に対応した経験がありま

す。「いじめ」そのものは昔からあり、なくならないと思います。大人社会でもパワハラ、の形で存在します。ですから「いじめは無かった」とするコメントは、慎重にすべきです。学校としては、学級からの情報が主任、管理職と上がるような共通理解のパイプをつくるのが大切だと思います。大津の「いじめ」事件を皮切りとすると、一連の報道は、偏っています。学校の責任も無いとは言えませんが、子どもを救う第一は、親であり、家庭にあると思います。親や家庭を取り上げるのはタブーで、他に責任を転嫁する姿勢には腹が立ちます。

二つの例で、自分の思いを述べましたが、皆さんは、どのように、お思いでしょうか。とにかく、今の日本は、おかしくなっています。将来を担うのは今の子ども達、そのことを、政治のリーダーも親も学校も今一度、考えなおさなければならぬ瀬戸際です。子ども達の心を育てるには、より多くの感動体験・成就体験を味わわせることだと思います。できる子を育てることでも大切ですが、社会を構成できるいろいろな違ったタイプの子を育てる公教育を進めてほしいと思います。

県退職校長会

「研修会」報告

八月七日、坂野重法愛知県小中学校長会を講師にお招きし、県退職校長会役員を対象に「つながり力を高め 共に行動する校長会」と題したご講演をいただいた。

県校長会の現状として、今年度は、東陸中・東陸小愛知大会が開催され県内の校長のつながりが一層深まったことはよかった。しかし、高校入試・退職後の処遇など課題が山積していることや、全国的な教育課題についてもパワーポイントを使い、分かりやすく丁寧に説明していただいた。



退職校長会研修会

現在の教育界を取り巻く現状を踏まえ、愛知の教育の充実・発展を願う、つながり力をもつて真摯に取り組まれていることが伝わってきた。

最後に、安藤公明会長よりお礼と感謝の言葉があり、研修会は終了した。

全国連合退職校長会

「事務局長会」報告

十月二日に、両国国技館に隣接する江戸東京博物館で、全連退事務局長会が開催された。

戸張会長の挨拶に続き、各部・各委員



会等の活動状況について報告があった。本年度新たに報告されたのは、全連退五十周年記念事業の一環として、教育図書出版をしていくこと。もう一つは、退職校長会への入会を勧めるリーフレットを新しく作成したことである。



午後からは分科会と全体会が行われた。そこでは、多くの県が「会員の高齢化と会員数の減少」という課題を抱えていることが報告された。また、「ゲ

チャーとして学校支援をしている」といった特色ある活動・事業等が報告された。

最後は、東陸地区の大竹会長の挨拶で幕を閉じた。

東海北陸地区退職校長会 東海北陸地区協議会報告



愛知県副会長
原田 茂男

平成二十四年度東海北陸地区退職校長会「東海北陸地区協議会」が、平成二十四年十一月八日・九日の両日、愛知県岡崎市（岡崎ニューグランドホテル）にて開催された。

本部より全連退常務理事木山高美氏、東海北陸各県から各会長、副会長等十六名、愛知県からは安藤公明会長はじめ役員十三名の総勢三十名の出席のもと二日間の協議会を開始した。



第一日目は、安藤会長の「岡崎市は徳川発祥の地、歴史と文化の街です。…」との歓迎のことばにより協議会が始まった。



た。全連退木山常務理事から「新たな教職員定数改善計画案（H二五年～二九年五カ年計画）は関係団体の関心ごとです。粘り強く陳情してまいります。」等の情報提供をいただいた。続いている協議会では、①組織の活性化（福井・三重・愛知）②組織の社会的役割を高め会員の所属意識の強化（静岡・岐阜）③学校への教育支援（石川・富山）④全連退への要望等短い時間の中で熱心に話し合った。最後に次期開催県福井県の上坂守男会長の挨拶で協議会を終了した。続いての懇親会でのアトラクションでは、安城市の御殿万歳が披露され万場の拍手喝采をいただいた。

第二日の教育視察は、家康公ゆかりの大樹寺および八丁味噌蔵を見学し、二日間にわたる協議会を全て終了し、次期福井県での再会を期し散会した。

地区退職校長会だより

県内の各地区退職校長会からたよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介していきます。

碧南市退職校長会

碧南市小中学校校長会OB会は、『教職を天職とし、そこに人生を掛けて生きてきた我々が、今ここに集い、再会の味を噛み締めることは、いささかの贅沢でもない』という先輩方の思いから賛同者をつくり、平成二十年に発足をしました。

元碧南市小中学校校長会OB会組織し、退職十年目の元校長会長が会長、退職九年目の元校長会長が副会長、退職一年目の元校長会長が会計を務める。退職年度を迎えた校長会長、または退職年度に最も近い校長会長が事務局として関係事務を執り行っている。会員数は、平成二十四年十二月現在五十四名である。

毎年、三月末の平日に会員相互の親睦を図ることを目的に総会及び懇親会を開催している。

会には会長あいさつに始まり、議事、新入会員の自己紹介をへて、懇親会に至る。年度によつては、県への出向者から最新の教育事情について話を

聞くこともある。

私自身、新入会員の紹介で、諸先輩を前にして、万感の思いを持って三十七年間を振り返り、育てていただいた諸先輩への感謝、力を貸してくれた同僚への感謝と『終わりのければすべてよし』の晴れ晴れとした心境を語ったことが思い出される。

今年も三月二十九日（金）に、新たな会員を迎え、お世話になった先輩方や同僚と再会できることを、多くの会員が楽しみにしている。

（二十三年度入会 高須哲夫）

名古屋市中退職校長会

「名古屋市中退職校長会」は、名古屋市の幼稚園・小学校・中学校・高校を退職した園長・校長で組織されており、現在千七百名を超す会員がいます。退職会員の相互の親睦を図るとともに、現職の校・園長の先生方と連携して名古屋市の教育の充実・発展をめざした活動を行っています。

会の歴史は古く、昭和二十六年に「名古屋市中退職校長温

故会」として発足、昭和五十年に現在の名称に改められました。活動としては、「幹事会」「総会」「追弔法要」などを行っています。



特に「追弔法要」は毎年秋に由緒ある「八事興正寺」において開催し、故人

となられた多くの会員のご冥福を祈っています。本年は、十一月十一日の日曜日に百名を超す遺族や会員が出席して盛大に法要をとり行いました。

また、その後の「総会」では青木 一元教育委員長様をはじめ来賓の方々のご出席のもと八十歳を迎えた会員の「傘寿」の祝いや新会員の歓迎会など和やかな雰囲気の中で懇親を深めることができました。

（二十四年度入会 池田 司）

春日井市退職校長会

本会は春日井市小中学校長退職者および春日井市在住の県内小中学校長退職者の希望者で組織し、現在会員数は二百三名となっています。主な事業としては、会員相互の懇親会や会員の米寿、喜寿の祝

賀事業、弔事に際しての弔問などを行っています。また、三年に一度、会員名簿を作成し会員の方々に配付しています。

今年度は五月十二日の土曜日に新会員十二名を迎えて定例の総会を開きました。総会では、故人に黙祷を捧げた後、活動報告や役員選出等を行いました。議事終了後には、今年度米寿、喜寿を迎えられた方々をお祝いしました。続いて市長、教育長を来賓にお招きして懇親会を行いました。懇親会是一年ぶりの出会いでもあり、終始和やかな雰囲気の中となりました。かつて職場を同じくし、指導をいただいた方々から当時のお話を改めてお聞きすると、以前には気づかなかった新しい発見を様々得ることができました。



平成24年 5月12日懇親会

一年に一度の会ではありませんが、日頃、会う機会の少ない方々と一堂に会して語り合えることは非常に喜ばしく、懇親会が意義ある会であることを痛感いたしました。

(二十四年度入会 家高幸夫)

三河黒松 実生からの出発

18年度入会 武藤 祐壹
(元 豊橋・中部中)

昭和五十二年、採った松ぼっくりからの実生が今の生活の原点である。松の実生苗を盆栽に育てるには、発芽して本葉が出る頃、直根を剃刀で切り、再度挿木をして毛根を発生させる。将来の銘木の八方根張の基礎づくりである。

三百本余の実生苗と、様々手に入れた樹々で庭はいっしょに埋め尽くされた。

生き生きライフ

三河黒松
下生に
加えて

いただいた。そこに見たものは、自分が抱いていた盆栽観を覆す作品と技術の山であった。

今、活動する日本盆栽協会浜名湖支部では、年二回の展示会、月一回の講習会、交換会・見学会等々、結構拘束される時間も多いたが、自分にとって心安らぐ居場所である。

盆栽とは、盆(鉢)の上に大

自然を表す。そこには古色溢れ、静寂さ漂い、時に風の流れを感じさせる「侘び寂び」の世界がある。自分には遙かな世界ではあるが、師匠の腰元ぐらいまではと精進している。時間は無尽蔵には無かったんだ、と気づき始めた昨今、実生三十五年の愛樹に悠久の時間が現れる姿を夢見ながら、水遣りをする毎日である。

私の欲ばりライフ

20年度入会 大野 保子
(元 名古屋・港楽小)

退職したら、脳を鍛えることと、体を鍛えることを一つずつしようと思っていた。

そこで、まず「語り部」の会に入り、ひたすらお話を聞きた。今では市内の図書館や近隣の学校へ出かけ、お話をしている。子どもと接することができると何より嬉しい。

体の方は、以前からヨガ教室へ通って、年と共にさびついていく体をほぐしている。免疫力が高まったという実感があり、これも嬉しい。

地域の人との交流も増えた。月一回の俳句会をするようになり、自分の住む土地の魅力を再発見している。この地は、知れば知るほど句材が豊

富で楽しみが尽きない。

今年、町内の作品展に共同作品として参加した。



俳句の共同作品

そして今、最も大切にしたいのが「乙女の会」。名古屋の同期の女性校長仲間と退職と同時に立ち上げ、今に至っている。

旅行、食事、音楽等の鑑賞、互いの趣味の発表会と、毎月のように集まって行動している。ただし、「乙女のように、恥じらいつつも若々しく」をモットーに。

今、私は、命がいくつも欲しいと思うばかりだ。

道徳に魅せられて

18年度入会 浅井 晃
(元 一宮・宮西小)

もう六十七歳になる。三十三歳の時に出会ってから、私の後半生は道徳とともにあったと言っても過言ではない。最初は中学校の学級担任として、指導案作成と一時間の指導の繰り返し。生徒が変容する、学級がまとまっていく、その楽しさを味わい道徳に惹き

つけられていったように思う。この後、目から鱗の落ちるような体験をする。

フランスノルマンディ地方の朽ちた礼拝堂を「林檎の礼拝堂」として再生させた美術家田窪恭治さんの物語。礼拝堂の壁画制作。彼は色の層が七・八色になるように二十五回から三十回絵の具を塗り重ね最後に白を入



れる。その後、特別なノミでひと掻きすると、白い壁から赤や黄色の線が現れる。ノミの入れ方によって鮮やかな色の様々な林檎が新しい風景として現れる。

道徳の時間の指導は田窪さんの色を塗り重ねる行為と同じだ。特に体験活動は色を塗り重ねる行為そのものではないか。授業も含めた豊かな体験活動は、将来様々な課題に突き当たった時、心のノミで新しい風景を削り出す力になり得ると道徳教育の意義を悟ったのである。

今も大学で道徳教育を教えている私は、多年の念願であった「林檎の礼拝堂」を今年三月に訪れるつもりでいる。

グランフォニック命

22年度入会 鈴木 清次
(元 豊橋・向山小)

退職間近になって無性に大学時代に没頭してきた男声合唱が懐かしくなってきた。退職一年後の六月、金山にある男声合唱団グランフォニックの門を叩いた。自己紹介で私が六十一歳と言うと、団員の



THE GRANPHONIC CONCERT 11th
2012.11.3 芸文コンサートホール

みんなから「若いなあ」の声。聞けば、平均年齢は六十五歳とのこと。二十代、三十代もいるが、やっぱり六十代後半からが最も多い。最高齢は八十一歳。総勢は六十名程。各大学男声合唱団のOBの集まりである。毎週水曜日七時に金山の音楽プラザにある練習会場には、四十名程の小父さん、お爺さんが集まって、日夜、究極のハーモニーを求めて励んでいる。

この十一月三日には愛知芸術文化センターコンサートホールに千三百名の聴衆を集め、第十一回の定期演奏会を終えることができた。今は、来る三月十七日に開催される、在名古屋の男声合唱六団体によるジョイントコンサートに向けて猛特訓中。兎にも角にも男声合唱が好きという連中の集まり。今現在、一番の生きがいはグランフォニックである。

夢の実現！

24年度入会 八田 俊明
(元 名古屋・幅下小)

学生の頃、友人の誘いで音楽活動の集いに参加したのがきっかけとなり、音楽を一生の友にしようと思いました。とは言え、現職の頃は、思うような活動はできず、続けることは無理だと思うようになりました。しかし、子どもたちに、「自分の好きなことを見つけて、それを続けなさい。」といってきたことを考えると、挫折するわけにはいかないと

思うようになりました。それから三十年以上経ちました。退職まで一か月という頃、三十年前に一緒に音楽活動をしていた友人から電話がありました。

「そろそろ退職でしょう！」

今は、その友人と一緒に

デイサービス



施設へ出かけて演奏しています。聴いていただいているみなさんの笑顔を見ると、今まで音楽を続けてきてよかったと思います。また、別の友人とも再会し、プロのミュージシャンをバックにライブハウスやホテルでジャズやポップスを歌っています。

今は、プロの中で堂々と演奏できるように日々練習しています。また、新たな夢も芽生えてきました。

こういう考え方ができるようになったのは、教師になったお蔭であり、出会った子どもたちのお蔭だと思えるようになってきました。

夢中になれるもの

23年度入会 香村 茂
(元 東浦・卯ノ里小)

昨年四月より、全くのフリーとなり今は、趣味の世界に毎日忙しく動いている。

現在手帳に書かれている予定は、ゴルフ、旅行、麻雀。そして、今年は町内会の係を行っているため、月に三〜四回の会合や行事が入ってくる。これらを入れると月初めには月の半分ほどの日に予定が書き込まれてくることとなる。予定の書き込まれていない

日には、もう一つの趣味の粘土遊び（陶芸）を行っている。



釉薬を主にした焼成した作品「花器」
マンガン (Mn) を掛け還元焼成

年前に家の近くに土地を借り物置小屋を建て、そこにロクロや電気窯を購入し、茶碗・皿・花瓶など気の向くままに作っている。

勤めていたときは、一年に三〜四回の焼成しかできなかったが、今は前述のようにこれといった予定がないときは小屋にこもり作陶をし、月に一度程度焼成している。

粘土は店から購入しているが、上薬（釉薬）は、一年ほど前から原料をインターネットで取りよせ、理科の実験さながら、いろいろな原料の重さを量り、混ぜて釉薬を作り、焼き上がりを楽しんでいる。

先日、テレビから「最大のリスクは、何も夢中になれるものがないまま人生を終えることだ」といった言葉が耳に入ってきた。それを聞いたとき、現役を退いた今、私には夢中になれるものの一つに、この陶芸がある喜びをつくづく感じたものであった。

訃報 (内は逝去された日)

太田 禮一先生(二四・六・二九)

元 田原市立衣笠小学校

早川 淳志先生(二四・九・三三)

元 日進市立梨の木小学校

奥村 弘道先生(二四・九・二七)

元 豊田市立足助小学校

ご逝去されました先生方のご冥福をお祈りいたします。

なお、本会より弔電にて弔意を表させていただきます。

※県退職校長会事務局に連絡いただいた中で、平成二十四年六月十五日から十二月二十日までにご逝去された方を掲載

事務局だより

岡崎の地で開催された東海北陸地区協議会に、事務局の一員として出席した。各県の理事の皆様方が異口同音に、「退職校長として、日々苦勞を重ねてみえる現職校長の背中をそっと押す存在でありたい」と述べてみえたのが、印象に残った。

退職校長の一人として、この先の過ごし方を考えさせられた会であった。

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九の一〇

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

電話 〇五二二六二一八五二

FAX 〇五二二六二一八〇七

E-mail aikochi@axel.ocn.ne.jp